

# 韓国金剛大学校 表敬訪問記

山田 英美・佐々木 さち子

金剛大学校と身延山大学との友好交流協定が結ばれ、

交流の第二弾としていよいよ交換留学生を相互に送り出す運びとなったので、二〇一〇年三月八日(月)から三月十日(水)の日程で、身延山大学より教員五名が表敬

訪問のために渡韓した。人員は中山光勝次期学長、仏教学科寺尾英智教授、福士慈稔教授、福祉学科山田英美教授、佐々木さち子特任講師。それに後期から留学予定の三年生大野望美さんが同行した。

訪韓旅程すべてにわたって、福士教授の手配とレンタカー運転で私たちは文字通り大船に乗った気分であった。人楽に過ごさせていただいた。日程は次の通りであった。一日目：成田空港(九：二〇) ↓ 仁川国際空港(一二：

〇〇) ↓ 東鶴寺(僧伽大學) ↓ 大田市内ホテル

二日目：ホテル(八：〇〇) ↓ 金剛大学校 ↓ 国立公州博物館 ↓ ソウル市街ホテル

三日目：ホテル(七：〇〇) ↓ 仁川国際空港(一〇：二〇) ↓ 成田空港(一二：一五)

「以下は、訪問先の要所々々で出会ったこと感じたことなどを佐々木(さ) 山田(や)のおしゃべりをまじえて綴っていくことにする。」

一日目……仁川空港から一路大田(テジュン)へ向けて南下する道すがら

(さ) 高層マンションが林立していますねえ!

(や) 道路がこんなに広くつくれるのは、住宅を高く積

み上げているからでしょうかねえ。

四時ごろ鶏竜山（ケリョンサン）国立公園のはずれにある東鶴寺（トンハクサ）の僧伽大學を訪問。尼僧の学長さんに建物群を案内していただいた後、学長室に招かれた。金剛大大学校は山の反対側にあるとのこと。

（さ）修行の場らしい静かで厳肅な雰囲気です。床暖房のオンドル、心地いいですね。

（や）リラックスした姿勢で、韓国式にお茶を入れてくださる、学長先生の流れるような所作が美しいです。（写真↑）

お土産に、ドライ棗（漢方）とカンジョンというサクサクとした「栗おこし」のようなお菓子をいただいた。学長先生の郷里でつくられたものとか。空港で売っているものより大ぶりで数倍おいしかった。

初日の宿泊場所は、儒城温泉（ユソン・オンチョン）街にある「スパピアホテル」。一九九九年にオープンした比較的新しい高級ホテルであった。荷物を置いてから、

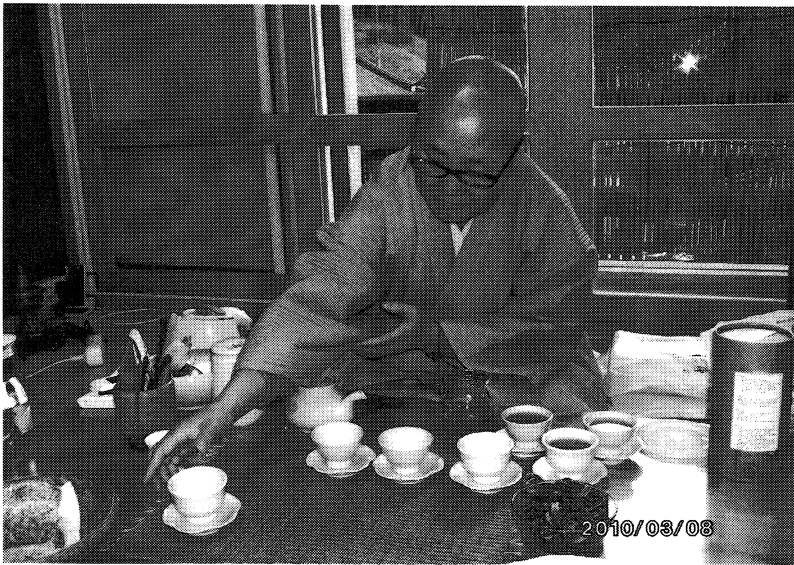


写真1 僧伽大學学長のおもてなし

徒歩で行けるところにあるレストランで金剛大学校側から七名の先生方が出席された晩さん会に招かれ、宮廷料理のような韓国料理を堪能した。

(さ) お料理も素晴らしく、なごやかな雰囲気で、あっという間に時間がすぎましたねえ。

(や) ほんとうに。いろいろの前菜がおしゃれですてきでしたね。参考にしたいです。

二日目……皆、早起きして、温泉に入ったり有効に過す。朝食は福士先生の案内で、サラリーマンが出勤前によく利用するという定食屋にて骨付牛肉の入った辛くておいしいユッケジャン。(写真2・3)

(さ) スープだけでも元気がでる感じ。外は寒いですが、身体が温まりますね。

ホテルを八時に出発して金剛大学校へ。次第に人家がまばらになってさびしい田舎の風景に変わっていき、延山とどっちが……という印象が口々に上ったころ、忽然と、じつに堂々たる近代的建物群が鶏籠山を背にして



写真2 朝食に立ち寄る人が多いという定食屋



写真3 朝食（ユッケジャン）のおいしい定食屋にて

現われたのだった（大専校の紹介は、福士先生記の「韓国金剛大専校訪問報告」に詳しいので、省略する）。

昨夜すでに顔を合わせている先生方が、にこやかに出迎えてくださって、応接室へと案内してくださった。

表敬訪問のメインのシーン（写真4）。

立派な応接室のソファに、こちらの六名と韓国側の一〇数名の先生方がおさまったところで、向こうから出された話題が「日蓮宗と創価学会の関係について」のお尋ねであった。成総長先生はじめ、居並ぶ面々がとても真剣な面持ちでおられるだけに、韓国の大学ではこういうことが話題として用意されていたのだろうか、と少々びっくりした。久遠山というフィールドにすっかりつなげておられる先生方には、そんなことは超越しておられる問題にならないことと私には感じられたので、こちらの他の先生方はどう説明されるのだろうかと思を詰めていると、寺尾先生だったかが、少し笑いながら

「あー、それは三輪先生に預けなくちゃ。今度はそのお

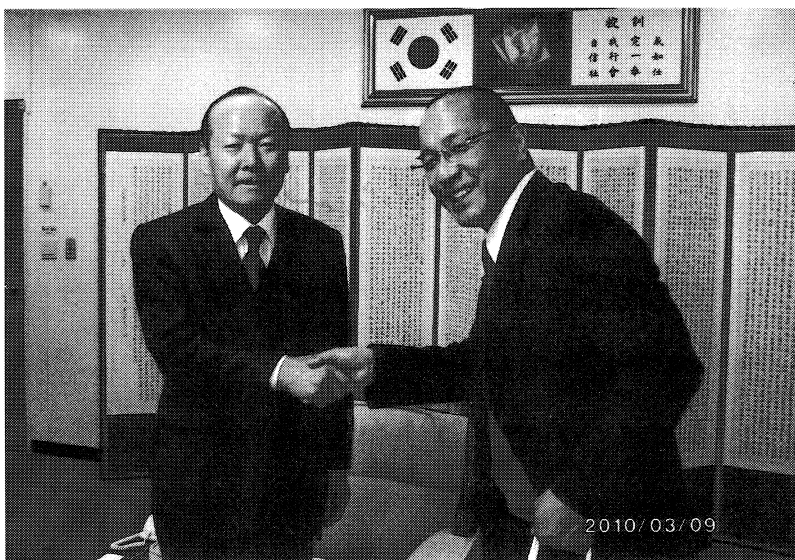


写真4 成総長と中山新学長

答えをもって三輪氏を派遣しましょう。」などと、内輪話っぽく発言してかわされた。と、日本語学科の教授である金 昌男先生が次のように韓国側の意向を通訳してくださった。

「大学内で学年はじめに学生に対する創価学会団体の勧誘があったりして、その論旨に日蓮宗にかかわる文言があり、身延山大学の僧籍を持たれている多くの先生方はどう考えておられるのか、ききたいということだったのです」と。

その説明を聞いて、話題の主旨がある程度理解できて、ほっとした。しかしそれ以上は韓国側も執拗に食いさがることはされず、深刻な議論にはならなかった。

（や）あとで考えたことⅡ岩波書店が出している『世界』という月刊誌のバックナンバー（一九九六年四月号）の中で、「村上春樹が河合隼雄に会いに行く」という対談記事がある。

「韓国の場合は、家族や一門のつながりというの

がものすごく大事な意味を持っているから、海外に出ても韓国人同士広い意味の家族として団結しファミリーとしてのパワーを有する場合が多い。」

思想的にファミリーとしてつながっているのならば、創価学会が日蓮宗と全く別物ではありえないだろうという感覚なのではないか。

河合は次のように続けている。

「日本人はフィールド・アイデンティティでその場その場をアイデンティティにしてしまうという非常に面白い性格を持っているから、会社をフィールドにしたり家族をフィールドにしたりで、その都度うまくやっているのですね。ですから韓国の方で、本当の意味で個人主義に目覚めてきた人はファミリーからデタッチしたいのだと思うのです。これにはものすごい起爆力が要ります。命がけの仕事になります。そういうことを考えているときに村上さんの小説のデタッチする面を読みとって

心が動かされる人が 多いんじゃないですか。」

これを読んだときに、訪問の時に感じた日韓の一種の感覚のずれに対する理解が自分の中で深まったように思い、引用させていただいた。

そのあと、最新の充実した施設設備や図書館等々を案内していただき、広い構内が一望できる屋上から、さらに将来建設される施設などのキャンパスプランを聞いた（写真5・6）。講義棟を移動する学生たちの姿が見え、美しい学生寮なども確認した大野さんは、胸膨らむ一方で緊張を感じている様子であった。

正面玄関の入り口で、巨大な横断幕を広げての記念撮影となり、総出の歓迎ぶりに感激の一シーンであった（写真7）。

昼食は、学食でよいというこちら側の意見は却下され、成総長のお招きで、車を走らせて、まるで韓国ドラマの時代劇に出てくるような建物のレストランで（写真8）、



写真5 金剛大学校屋上より（奥が学生寮）



写真6 マルチメディア室



写真7 歓迎横断幕



写真8 昼食会が開かれた民家風のレストラン



前日の夕食と同様なごちそうをいただいた。金剛大学校側が二十人ほど同席してくださり、にぎやかな会食であった。

外には雪が舞い始めていた。

辞してから、私たちは、武寧王陵副葬品を中心に各時代の文化遺物八〇〇点以上を所蔵、展示している国立公州博物館（クンニブ・コンジュ・パンムルグアン）を見学した（写真9・10）。

（さ）武寧王と王妃の金製冠や耳飾り、銀製の腕輪は保存状態も素晴らしいですね。当時の勢力を感じさせます。

夕刻迫るソウル市街へと車を向けたときには、雪が勢いを増していた。庶民的といわれるこのホテルは、隣に曹溪寺（チョゲサ）があり、修業僧もよく利用すること。

夕食は、市街の焼肉店で、プルコギ（韓国風すき焼き）、チヂミ、ナムルなど日本でもおなじみのものを本場で味

わった。

（さ）初めて生マッコリというお酒をいただきましたが、口当たりが良くておいしいですね。飲みすぎに気をつけましょう。

そのあと茶房へ座を移し、オミザチャ（きれいな赤い色をしたお茶。五味子茶と書き、五味子の実を乾燥させたものを一晩水につけ、松の実を浮かべて飲む。酸味、苦味、辛味、甘味、塩味五つの味がする）や、スジョンガ（コーヒー色をしている、桂皮とショウガを別々に煮出し砂糖を加え、干し柿と松の実を入れて冷やして飲むお茶）など、どれにしようかと。

（や）いろいろ味わってみたい珍しい飲み物で興味津々になりますね。中山先生は日本茶ですか。日本茶もここでは珍しいお茶……。

三日目は、いよいよ帰国。昨夜来の雪が相当積もっていて、三月の大雪も韓国だからなのかなどと、まだトリップしたままの感覚で空港に向かった（写真11）。



写真9 国立公州博物館文化遺物の一つ



写真10 博物館前にて



写真11 雪景色のソウル市街

日本についてみると山梨も雪景色で、私たちはいきなり現実に引きもどされたのであった。

九月から金剛大学校から女子学生が二名、一年間の予定で来山することになっている。こちらからも男女各一名が先方へ半年間行く。それぞれの文化になじんで生きてきた若い人たちが異文化の中で何を感じ、何をつかむか、私たち教職員も在学生も共にかれらをフォローしサポートするなかで友好の輪を確かなものにしていきたい。

(さ) (や) 先生方、お疲れさまでした！ とくに福士先生には、全行程のレンタカー運転からレストランえらび、いろいろの案内すべてにわたって完璧なアレンジをいただき、ありがとうございました！  
カムサハムニダ！